

ベトナム人EPA看護師候補者の国家試験
対策に関する研究

○蓑田さゆり* 樋口聡美** 北川千恵子**

比留間洋一*** 青野淳子**

*鈴鹿医療科学大学看護学部 **NPO法人

外国人看護師・介護福祉士教育支援組織

***静岡県立大学大学院国際関係学研究科

[目的]EPA 看護師候補者では国家試験合格率が低迷している。その主な理由は日本語の習得が十分でないこととされている。2014 年に開始したベトナム人看護師候補者対しては日本語能力試験でN3レベル以上との条件を付与した。この条件が看護師国家試験合格への必要十分条件となるかを検証し、国家試験合格率を上げるための具体的な対策を見出すことを目的とする。

[方法]第1陣ベトナム人看護師候補者 11 名に面談のうち 7 名の第 104 回国家試験の成績について 7 名が正解できなかったすべての問題を抽出した。とくに 7 名中 4 名 (57.1%)以上が正解できなかった 95 問のうち日本人受験者の 70%以上が正解した 49 問に着目した。それを出題領域別に分類し不正解の理由について面談を含む調査を実施した。日本人正解率は医学評論社及び東京アカデミーの資料より算出した。

[倫理的配慮]NPO法人外国人看護師・介護福祉士教育支援組織倫理委員会の承認を得た。対象者には面談にて説明し研究参加への同意を得た。

[結果]ベトナム人正答率が日本人に比し低率であった 49 問(必修 8、一般 28、状況設定 13)のうち必修問題を除く 41 問は出題総数に占める割合でみると一般 21.5%、状況設定 22.0%であった。また領域別では「在宅看護論」、「人体の構造と機能」、「健康支援・社会保障」が各 33.3%で最も高かった。「疾病の成り立ちと回復の促進」は 0%であった。ベトナム人が正解できなかった理由では①「病院や大学で学ばなかった」45.1%、②「学んだが忘れた」36.3%、③「日本語がわからなかった」4.5%であった。

[考察]ベトナム人候補者の日本語能力は「話す」と「聞く」について来日 1 年半を過ぎても不足を感じた。入職 6 か月後に受験した第 104 回国家試験 7 人の成績よりベトナム人候補者の「読解」力は国家試験勉強を開始するのに十分であったと推定された。ベトナムの看護教育では日本の社会保障など

に加えて在宅・精神・老年・災害看護学について十分にカバーされていないとされるが本報の結果はこれらの領域のみならず日本の看護師国家試験出題基準のすべての領域についてカバーしていない部分があり補完が必須であることを示唆している。